

小学校「第5学年」音楽科学習指導案

指導者 三次市立三次小学校

教諭 住田 里美

- 1 概要
- 日時：平成17年10月27日（木）9：30～10：15
 - 対象：第5学年1組（24名）
 - 場所：三次市立三次小学校 体育館



2 題材名

「三次どんちゃん」

～どんちゃんでどーんとやってみよう！～ （おはやしをつくろう）

（全8時間扱い）

3 学習指導要領の内容との関連

- A 表現 （2）イ 拍の流れやフレーズ，音の重なりや和声の響きを感じ取って，演奏したり身体表現をしたりすること。
- （4）ア 曲の構成を工夫し，簡単なリズムや旋律をつくって表現すること。
- B 鑑賞 （1）イ 主な旋律の変化や対照，楽曲全体の構成，音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くこと。

4 題材の目標

- 「三次どんちゃん」に関心を持ち，イメージを広げながら創造的にお囃子づくりを楽しむ。
- 「三次どんちゃん」の特徴を感じ取って，リコーダーや紙太鼓などでイメージに合ったふしやリズムをつくり，曲の構成を工夫し，表現する。
- お囃子がもつ独特な音楽の構造に着目し，そのよさやおもしろさを味わう。

5 題材設定の趣旨

（1）題材観

本題材は，お囃子がもつ音楽の諸要素に着目し，それを生かしてお囃子づくりをさせることで，児童一人一人の感性や創造性を発揮させながら，それらを高めることをねらいとして設定した。

「祭り」などで演奏されるお囃子は，表現したり聴取したりする者の精神を高揚する感化力をもった音楽である。そのため，多くの地域で伝統文化の一つとして，時代に応じて変化・発展させながらも，大切に伝承されてきているものである。お囃子の音楽は，所作に合わせたリズムの反復が主となっており，それに合わせたふしが重なっている構造である。所作とリズムは一体化されており，それぞれの工夫がお囃子の特徴ともいえるのである。また，ふしも基本的な旋律の音型を変化させながら繰り返されて構成されている。したがって，児童にお囃子の所作を含め



たリズムづくり，ふしづくりをさせることは，リズムやふしに着目させるのみでなく，反復や変化を感じ取らせることになる。さらに，お囃子は集団でリズムや所作を合わせて踊られることが多いことから，他者とともに拍や音を合わせて演奏をする能力を高めることができると考える。

本題材で取り上げる教材の「三次どんちゃん」は，毎夏催されている地域の祭りで演奏されるお囃子である。多くの児童はそれに触れてはいるのであるが，「三次どんちゃん」がもつお囃子の音楽的な構造を感じ取るまでには至っていない。

そこで本題材では，「三次どんちゃん」の特徴を生かしながら，ふしや太鼓のリズムをつくって表現できるようにする。また，つくったリズムに合わせた身体の動き（所作）も工夫させることにより，音楽と身体表現が一体化していることに気付かせるようにする。これらを通して，お囃子のもつ特徴を感じ取る力を育成するとともに，音楽体験の幅を広げることができると思う。

（２）児童観

本学級の多くの児童は音楽活動を好んでいる。歌唱活動においては，集団の中で表現することが「恥ずかしい」などの理由から，声を出すことをためらう傾向がある児童も数名見られる。これらの実態から，より音楽に親しませるために「自分の想いを伝えよう！友だちの想いを受け止めよう！！」という学級目標と関連させながら，朝の会・帰りの会等に音楽活動を取り入れ，児童一人一人の音楽活動への意欲を喚起させるように取り組んできている。創作活動においては，１学期に音楽ゲームの中で，即興的なリズムづくりを楽しんだが，リズムを楽譜に表す経験はない。

「三次どんちゃん」については「三次きんさい祭」のパレードに参加し演じたことのある児童が４名，その音楽を聴いたことのある児童が２０名である。したがって「三次どんちゃん」で使われている楽器にふれたり，音楽を演奏したりしている児童は少ない。そこで，１学期にゲストティーチャーを招聘し，「三次どんちゃん」の歴史，紙太鼓の作り方・たたき方を学ばせ，紙太鼓を作製し演奏させた。事後の評価カードには，「みんなのリズムが合わさって迫力があった」「踊りを工夫したり，かけ声をもっと元気にしてみよう１回演奏してみたい」といった感想が多く見られた。このことから「三次どんちゃん」を演奏する意欲は高まっていると考えられる。

一方，リズムが合わない，あるいはかけ声や踊りを恥ずかしがる傾向を見せる児童もいた。これらの実態から，実際に自分たちのオリジナルな「三次どんちゃん」の音楽づくりを通して，関心・意欲を高めながら，感じ取る力や技能の伸長を図っていく必要があると考える。



（３）指導観

指導に当たっては，まずは「三次どんちゃん」のよさを十分に感じ取らせるために，「きんさい祭り」の映像を提示する。その際，音楽そのものを聴取させたり，所作に着目させたりする。そこでは，「三次どんちゃん」がもっている音楽的な構造に着目させるため，楽器やかけ声がそれぞれどのような役割を持っているのか感じ取らせるようにする。

次に，自分がつくりたいお囃子のイメージを膨らませるために，リズムカードを提示し並び替えを行い，どんなリズムが合うか考えさせるようにする。また，ふしづくりにおいては，

「三次どんちゃん」で使われている音に絞り，組み合わせを変えながらつくらせるようにする。

さらに，所作の工夫においては，音楽に合わせることのみでなく，どのような身体の動作が，お囃子のもつイメージに合うのか考えさせるようにする。演奏の形態は，ロンド形式(A—B—A—C—A—D—A)とし，グループで考えたお囃子が基本のお囃子と合わさり一つの音楽となるようにする。

発表の場面では，「三次どんちゃん」の世界にどっぷり漬からせるために，本物の法被や鉢巻きを着用させるようにする。個人やグループで試行錯誤させながら最終的に一つのものをつくり上げるという達成感を味わわせたい。

6 教材と教材選択の理由

(1) 教材名

《楽器》紙太鼓，リコーダー，平胴太鼓，鉦，ホイッスル

《楽曲》「神田ばやし」「ねぶたばやし」「祇園ばやし」「ガムラン」

(2) 教材(楽曲)選択の理由

「神田ばやし」 B (1) イ

東京に伝わる代表的な江戸ばやしの一つである。「三次どんちゃん」の音楽的な構造と比較して聞くことによりお囃子の特徴を感じ取れる楽曲である。

「ねぶたばやし」 B (1) イ

青森ねぶた祭りにて演奏されているお囃子である。踊り手である「ハネト」とお囃子が一体となって音楽を構成している。視覚聴取させることにより「三次どんちゃん」と同様に音楽と身体表現が一体化していることを感じ取れる楽曲である。

「祇園ばやし」 B (1) イ

祇園ばやしは能楽の影響のもとに室町時代末期に成立したお囃子である。「コンチキチン」の一言で表されてしまうお囃子だが，曲調は様々ある。お囃子のリズムや曲調の多様性を感じ取れる楽曲である。

「ガムラン」 B (1) イ

インドネシアの代表的な打楽器のアンサンブルである。ガムランは一定のリズムの周期の中で異なる打楽器が特定の順序でリズムの区切りを付けるコロトミーという構造になっている。日本のお囃子をもつ特徴と同様な特徴を感じ取れる楽曲である。

(3) 「三次どんちゃん」について

広島県北部の中心都市，三次市。そこで行われる夏の最大イベント「三次きんさい祭」。この祭りは1975年から始まり，今年で30回を迎えた。そこで繰り広げられる「三次どんちゃん」には約50団体，4000人の参加者があり年々その輪は広がっている。

この祭りは，1972年の集中豪雨による大洪水という災害により，落胆していた人々に「元気を出そう・活気を取り戻そう」という趣旨で始まった。その中で踊られている「三次どんちゃん」は三次に古くから伝わる川漁「鵜飼」がモチーフとなっている。鵜を表している楽器は，紙太鼓，鉦，平胴太鼓，篠笛で，ホイッスルを持った鵜匠の合図にあわせ演奏をしていく。「三次どんちゃん」の音楽は，鉦が一定の拍を打ち全体のリズムを支えながら，平胴太鼓が同じリズムを繰り返すオスティナート（繰り返しのパターン）となり音楽の基本の流れを

つくり，その大部分を支配している。それをベースとし紙太鼓と篠笛がふしに，かけ声がオーナメーション（合いの手）になり，音楽は構成されている。「三次どんちゃん」には基本のリズム『ドン・ドン・カッカカ・ドドンあよいとさ』がある。近年では，「三次きんさい祭」に参加する各団体によって基本のリズムも残しつつ，新しくアレンジされてきているものも多くある。

「三次どんちゃん」で使われている紙太鼓は古く元禄時代にさかのぼる。忠臣蔵の話で有名な赤穂義士の一人菅谷半之丞は，三次に身を隠すさんだ生活を送っていた。ある夏の夜，飛んできた虫が障子にぶつかり，ポンポンと音を立てることにヒントを得て，竹枠に和紙を張って素朴な紙太鼓を作った。人知れず打ち鳴らしながら討ち入りの陣太鼓の響きを想い，己を励ましていたようである。見事本懐を果たした後，この紙太鼓は誉れ高い遺品として鳳源寺に保存されたが，火災により消失した。この伝説に基づいて1960年に復元されたのが「三次紙太鼓」であり，現在「三次どんちゃん」には欠かせない楽器となっている。



7 題材の評価計画

（１）題材の評価規準

□ Aと判断する子どもの姿

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽	○	○	○	
創作	○		○	
鑑賞				
題材の評価規準	「三次どんちゃん」の特徴を生かした表現に関心を持ち，意欲的に紙太鼓を中心とした表現活動に取り組もうとしている。	「三次どんちゃん」の音楽的な構造や構成のおもしろさ，楽器の響きのよさなどを感じ取って，表現や鑑賞の仕方を工夫している。	お囃子の特徴に合ったリズムやふしをつくったり，音楽の諸要素を生かして，楽器演奏をしたり，所作を加えて表現活動をしたりしている。	アジアの音楽やお囃子の持つ音楽的な構造や音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわり，楽器の音色などを味わって聴いている。
	「三次どんちゃん」の旋律や楽器の音色に関心を持ち，演奏を楽しんでいる。 □ 「三次どんちゃん」のイメージをふくらませて，進んで演奏している。	「三次どんちゃん」の特徴や楽器の音色などを感じ取るために，聴き方を工夫している。 □ 「三次どんちゃん」の持つ音楽的構造，固有の音色，音量・速度の変化を感じ取っている。	「三次どんちゃん」の特徴に合ったリズムやふしをつくっている。 □ 様々な音やリズムの組み合わせ，曲の構成にこだわって音楽づくりをしている。	アジアの音楽や各地のお囃子が持つ特徴，楽器の音色などを全体的に味わって聴いている。 □ お囃子の特徴やよさ，楽器の響きなどの感じ取りの理由を見付けようとしながら聴いている。

学習活動における具体的評価規準	「三次どんちゃん」の特徴を捉えたグループの演奏をつくり上げるために、他のメンバーと協力しながら活動を楽しんでいる。 □ グループの中心となり、演奏を方向付けている。	「三次どんちゃん」の持つリズムや旋律の特徴、曲の構成のおもしろさを生かした表現の工夫をしている。 □ 「三次どんちゃん」の持つ音楽の諸要素にこだわって表現の仕方を工夫している。 他のグループの表現の工夫を感じ取り、自分たちの表現に生かしている。 □ よりよい表現をめざして何度も工夫を重ねている。 互いの音楽表現のよさ、工夫、おもしろさを感じ取って聴いている。 □ 友だちの表現のよさ、工夫、おもしろさを、多数感じ取っている。	楽器の音色やリズムに気を付けて演奏している。 □ 音色や効果的な奏法に気を付けて練習し続けている。 考えた「三次どんちゃん」に所作やかけ声を加えて演奏している。 □ 音楽と身体表現が一体化している。	
-----------------	--	---	---	--

(2) 評価方法

- A ビデオ撮影 B 学習カード C 感想発表 D 表情や態度の観察
E 演奏の聴取 F グループ活動の観察

8 指導と評価の計画（全8時間）

次	過程	ねらい、働きかけ等	学習活動の流れ(○)と 予想される児童の反応()	具体的 評価規準	評価 方法
第一次 (1時間)	気付く	○ アジアの音楽や日本各地のお囃子を知ろう。 ○ 「三次どんちゃん」に親しむ。	○ アジアの音楽や日本各地のお囃子を聴く。 地域の祭りできいたことがあるなあ。 にぎやかな感じがするね。 三次どんちゃんに親しもう。 ○ 「三次きんさい祭り」の映像や範奏を聴いて、特徴や楽器の響きを感じ取る。 いろんな楽器の音が聞こえるよ。	イ	E

		今年の「三次きんさい祭」を見てみよう。  三次どんちゃんのリズムをたたいてみよう。	鉦や太鼓がリードしているよ。 同じリズムが何回も繰り返されてるね。 「三次どんちゃん」のリズムを思い出し、篠笛などに合わせて紙太鼓の演奏を楽しむ。 篠笛やチャンチキが入ったほうがお祭りらしく聴こえるね。 体が勝手に動いて踊ったり、大きなかけ声が出て盛り上がったよ。 - さんは、きんさい祭りに出たので、やっぱりリズムと踊りが合っていて上手だね。	ア	D B
第二次 (2時間)	つかむ	お囃子のリズムを紙太鼓でつくる。 リズムカードを使ってリズムをつくろう。  リズムリレーをしよう。	おはやしに合うリズムをつくろう。 - お囃子のリズムの特徴や曲の構成を考え、自分のリズムを工夫してつくり、紙太鼓で演奏する。 リズムカード以外のリズムをつくってもいいかな？ 考えたリズムに強弱をつけてたたくほうがいいかもね。 ぼくは、だんだん速くなるので、速さに気をつけてたたくぞ。 - 考えたリズムを発表する。 次は、リズムの順番を変えてたたいてみたらおもしろいかも？ 同じリズムカードなのに並べ方で感じが変わってくるね。 間違えずにリズムがたたけたよ。 - くんのリズムはお囃子っぽくて三次どんちゃんに合いそうだったよ。	イ	D B
		お囃子の旋律をリコーダーでつくる。 どんなふしがお囃子に合うのかな。	おはやしに合うふしをつくろう。 お囃子の旋律の特徴や曲の構成を考え自分のふしを工夫してつくり、リコーダーで演奏する。 このふしを篠笛で吹いたらもっとお囃子らしいかな？	イ	D B

第五次（１時間）	ふかめる	○ アジアの音楽や日本各地のお囃子の特徴を感じ取る。 前聴いたときと比べて新しい発見があるかな。	曲の特徴を感じ取ろう。 ○ アジアや日本各地のお囃子に親しみ、特徴を感じ取りながら聴く。 地域によってかけ声が違っていてもしろいね。 同じリズムやふしが繰り返されているね。 「三次どんちゃん」に似たようなリズムだね。 一学期にやったアジアの音楽も繰り返しがでてきたね。	エ	C E
----------	------	--	--	---	--------

9 本時の学習（第四次 1時間目）

（１）本時の目標

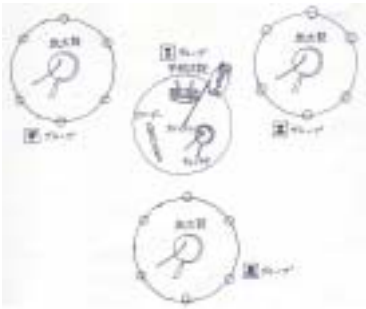
「巴どんちゃん」を、曲の構成や奏法に気を付けて、演奏と所作を工夫しながら表現する。

（２）準備物

楽器，学習カード，掲示用楽譜

（３）本時の展開

学習内容・学習活動 ：教師の働きかけ ：児童の行動・発言・つぶやき		指導上の留意点	評価規準
1 音楽ゲームをする。 ○「紙太鼓 ^{ユル} ・アンド・リスpons」 リズムに合わせて演奏したり，体を動かしたりしよう。		楽しい雰囲気を作るとともに，本時の学習にスムーズに入れるようにする。 	
2 本時のめあてをつかむ。 どんちゃんてどーんとやってみよう！			
3 「三次どんちゃん」の基本のリズムや旋律を演奏する。 「三次どんちゃん」を元気よく演奏しよう。 うまくできたよ。もう一回やりた い。 チャンチキやリコーダー，平胴太鼓が入ると「三次どんちゃん」らしくなるね。 かけ声や踊りが，音楽に合ってきた		かけ声や踊りをリズムに合わせてながら，演奏するように助言する。 	

ね。 4 グループでよりよい表現を目指して工夫を重ねて練習する。 グループの工夫がアピールできるように練習しよう。 ○さんは、もっとリズムに乗ってたくようにしようよ。 速さや、強さを考えよう。 間違えないように何回も練習しておこう。 5 各グループの表現を全体でつなげお互いの表現を聴く。 全体でつなげて演奏してみよう。 だんだんとリズムが合ってきているからこの調子で練習しよう。 他のグループのリズムやかけ声を取り入れよう。 もっとお囃子の特徴が出るように踊りやかけ声を変えよう。 6 「巴どんちゃん」を完成させる。 最高の演奏をして人々を感動の渦に巻き込もう。 7 感想の交流をする。 グループで工夫したことや、他のグループの工夫を発表しよう。 発表の順番を変えてもおもしろいかも？ リコーダーの音色がきれいに響いていたよ。 ○グループが同じリズムをたたいていたから、三つの違うお囃子なのに一つにつながったね。 8 次時の予告を聞く。	- 練習中はグループの楽譜に工夫するところを記入させる。 - つなげた後、各グループのリコーダーに工夫したらよいところを助言し練習に生かすようにする。  - ロンド形式をとり、5分程度の曲になるようにする。 (A - B - A - C - A - D - A) - 曲全体の構成や旋律・リズムに着目した感想を取り上げる。 - 学習カードに振り返りを書く。 - 意欲を喚起するような言葉かけを行う。	イ イ イ
--	--	----------------------------